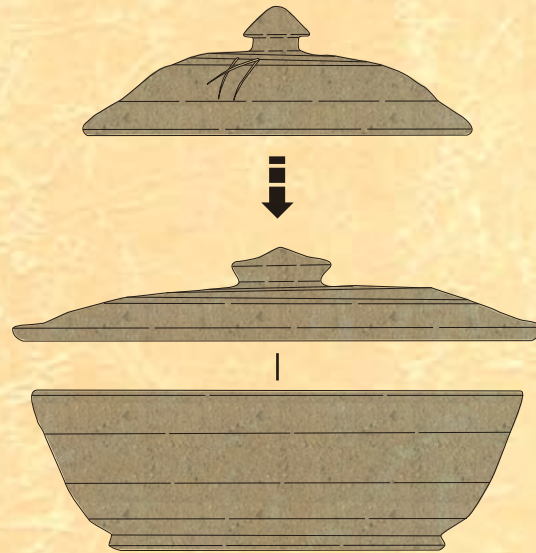


平成16年度  
高知南国道路外1件埋蔵文化財発掘調査  
にし の の い せ き  
西野々遺跡

記者発表および現地説明会資料



日時 記者発表 平成17年1月20日(木) 午前11時～  
現地説明会 平成17年1月22日(土) 午後1時～3時  
場所 南国市大埴字西野々の発掘調査現場

高 知 県 教 育 委 員 会  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



# 平成16年度 高知南国道路外1件埋蔵文化財発掘調査にかかる 西野々地区(西野々遺跡)発掘調査概要

## 1. はじめに

今回の記者発表並びに現地説明会は、平成16年度に実施している発掘調査の成果を地元住民の方々を始めとして広く一般県民に公表するものです。

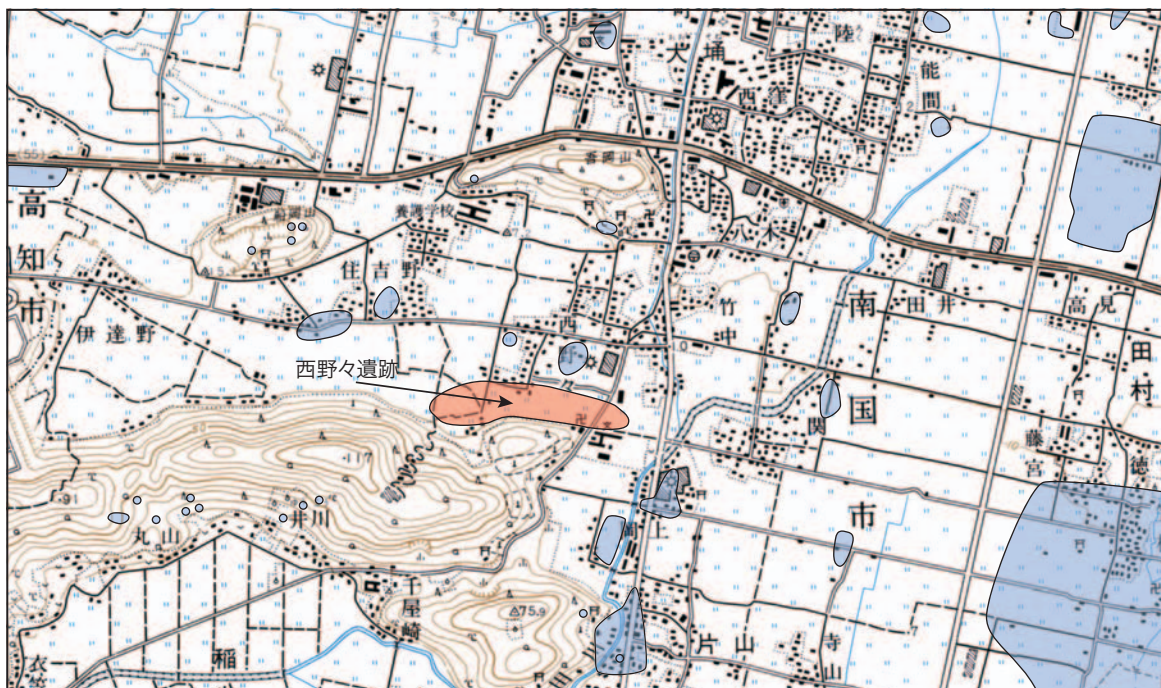
発掘調査は、国土交通省(四国地方整備局土佐国道事務所)が計画している一般国道55号高知南国道路工事区域内に所在する遺跡(西野々地区では西野々遺跡が調査対象)の中で、工事によって影響を受ける部分について事前の発掘調査を行ったうえで出土遺物等の整理作業を行い、遺跡の記録保存を図ることを目的としています。

本年度は西野々遺跡の東半分(I区・II区・III区の東半分)が調査対象で、平成17年度に残りの西半分(III区の西半分・IV区・V区)の調査を実施する予定です。

尚、本発掘調査は、国土交通省より調査委託を受けて、実施しています。

## 2. 西野々遺跡の概要

西野々地区には、茶田遺跡(古墳時代)が散布地として周知されていたものの、具体的な遺構の存在は知られていませんでした。そのため、平成15年度に事前の試掘調査を実施し、遺構や遺物の有無について確認を行ったところ、工事区域のほぼ全域から中世(鎌倉・室町時代)を中心に弥生時代と古代(奈良・平安時代)の遺構・遺物が確認されました。この結果を受けて、本年度本発掘調査を行うこととなりました。なお、遺跡名については、遺跡の範囲が茶田と呼ばれる小字部分以外にも拡がることや地元住民の方からの要望もあり「西野々」という字名を使用し、茶田遺跡から西野々遺跡に変更しました。



西野々遺跡と周辺の遺跡

本年度の発掘調査では、新たに古墳時代の遺構と遺物も確認され、西野々遺跡は弥生時代から中世(一部近世)にかけての複合遺跡となり、最近まで耕作されていた田んぼや畑の下には弥生・古墳時代の集落跡、古代の官衙関連施設跡そして中世の集落跡が人知れず埋もれていたこととなります。

### 3. 調査対象地

南国市大埴字西野々

### 4. 調査体制

調査委託者 国土交通省 四国地方整備局

調査主体 高知県教育委員会

調査実施機関 こうちけんぶんかざいだんまいぞうぶんかざい (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

### 5. 調査委託費

西野々他 317,509,500円

### 6. 調査期間

平成16年5月17日～平成17年2月24日

### 7. 調査面積

#### (1) 全体

調査対象面積 約18,100㎡

調査総面積 約17,018㎡(上層面:14,120㎡, 下層面:2,898㎡)

#### (2) I区

調査対象面積 約6,800㎡

調査総面積 約6,048㎡(上層面:5,320㎡, 下層面:728㎡)

#### (3) II区

調査対象面積 約7,800㎡

調査総面積 約7,800㎡(上層面:6,400㎡, 下層面:1,400㎡)

#### (4) III区の東半分

調査対象面積 約3,500㎡

調査総面積 約3,170㎡(上層面:2,400㎡, 下層面:770㎡)

### 8. 調査方法

#### (1) 調査範囲

工事計画区域で工事によって影響を受ける部分について全面発掘調査を行い、遺構面が複数確認された場合には、分けて調査を行います。

#### (2) 土層掘削

土層掘削については、遺物包含層の上まで機械力(ユンボ等)を導入し、遺物包含層については原則として人力で行い、遺構の検出並びに遺構の調査についてはすべて人力で行います。

## (3) 調査記録

調査中は、遺物出土状態の写真撮影と実測、遺構の写真撮影と実測等を必要に応じて随時<sup>ずいじ</sup>行い、地質学等関連分野<sup>ぶんせきちやうさ</sup>の分析調査や航空写真撮影<sup>こうくうしゃしんさつえい</sup>及び航空測量<sup>こうくうそくりやう</sup>も併用します。

## (4) 公開

調査が概ね終了した段階には必要に応じて記者発表並びに現地説明会を行い、遺跡の概要を一般に公開します。

## (5) 埋め戻し

発掘調査が完了後は、埋め戻しを行った上で引き渡します。

## 9. 調査結果

## (1) 検出遺構

弥生時代：<sup>たてあなしきじゆうきよあと</sup> 竪穴式住居跡、<sup>ほったてばしらたても</sup> 掘立柱建物跡、<sup>みぞあと</sup> 溝跡、<sup>どこう</sup> 土坑、ピットなど

古墳時代：<sup>たてあなじょういこう</sup> 竪穴状遺構、溝跡、ピットなど

古 代：掘立柱建物跡、溝跡、土坑、ピットなど

中 世：掘立柱建物跡、<sup>へいあと</sup> 塀跡、溝跡、土坑、ピットなど

近 世：土坑など

## (2) 出土遺物

総点数 約20,600点

弥生土器、<sup>やよいどき</sup> 磨製石斧、<sup>ませいせきふ</sup> 土師器、<sup>はじき</sup> 須恵器、<sup>すえき</sup> 二彩陶器、<sup>にさいとうき</sup> 緑釉陶器、<sup>りよくゆうとうき</sup> 布目瓦、<sup>ぬのめがわら</sup> 土師質土器、<sup>はじしつどき</sup> 瓦器、<sup>がき</sup> 瓦質土器、<sup>がしつどき</sup> 青磁、<sup>せいじ</sup> 白磁、<sup>はくじ</sup> 土錘、<sup>どすい</sup> 軽石製浮子、<sup>かるいせいうき</sup> 近世陶磁器など

## 10. 調査成果

## (1) 弥生時代の集落跡の一角を確認

I区東端部から中期後半から後期初め頃の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、舟形土坑などの遺構がまとまって確認され、当時の集落がさらに東に展開していることが推察されます。また、Ⅲ区南西部からは集落を区画する可能性のある複数の溝(後期初めと後期後半)が検出され、その南西には集落が広がっていることを示唆し、来年度の調査でその実態が明らかになるものと思われまます。

弥生時代の地形は、I区南部からⅡ区中央部にかけて低湿地が広がり、Ⅲ区北西部から南東部にかけては低地となっており、集落が形成されるのは標高の比較的高い、地盤の安定したI区東部やⅢ区南西部に限られたようです。

## (2) 古墳時代の遺構を検出

Ⅲ区を中心に古墳時代後期(7世紀)の溝跡や竪穴状遺構と共に須恵器なども出土し、来年度調査予定のⅢ区西側には集落が展開している可能性があります。

## (3) 官衙関連施設と見られる建物跡を発見/大曾郷の郷家跡か?!

I区中央部の微高地上から方形の掘方の柱穴で構成された建物群が9棟余り検出され、周辺からは緑釉陶器を始め、県内では数少ない二彩陶器が出土し、何らかの官衙関連施設であったものと考えられます。その性格を特定する墨書土器や刻書土器の出土は確認されておりましたが、当遺跡から北には大曾郷(現在の大桶)が存在したのと考えられること、さらに調査区北側には「郷ノ前」のホ

ノギ(小字)が残っていることから推察すると大曾郷の郷家跡であった可能性も考えられます。

(4) 中世の屋敷跡を確認

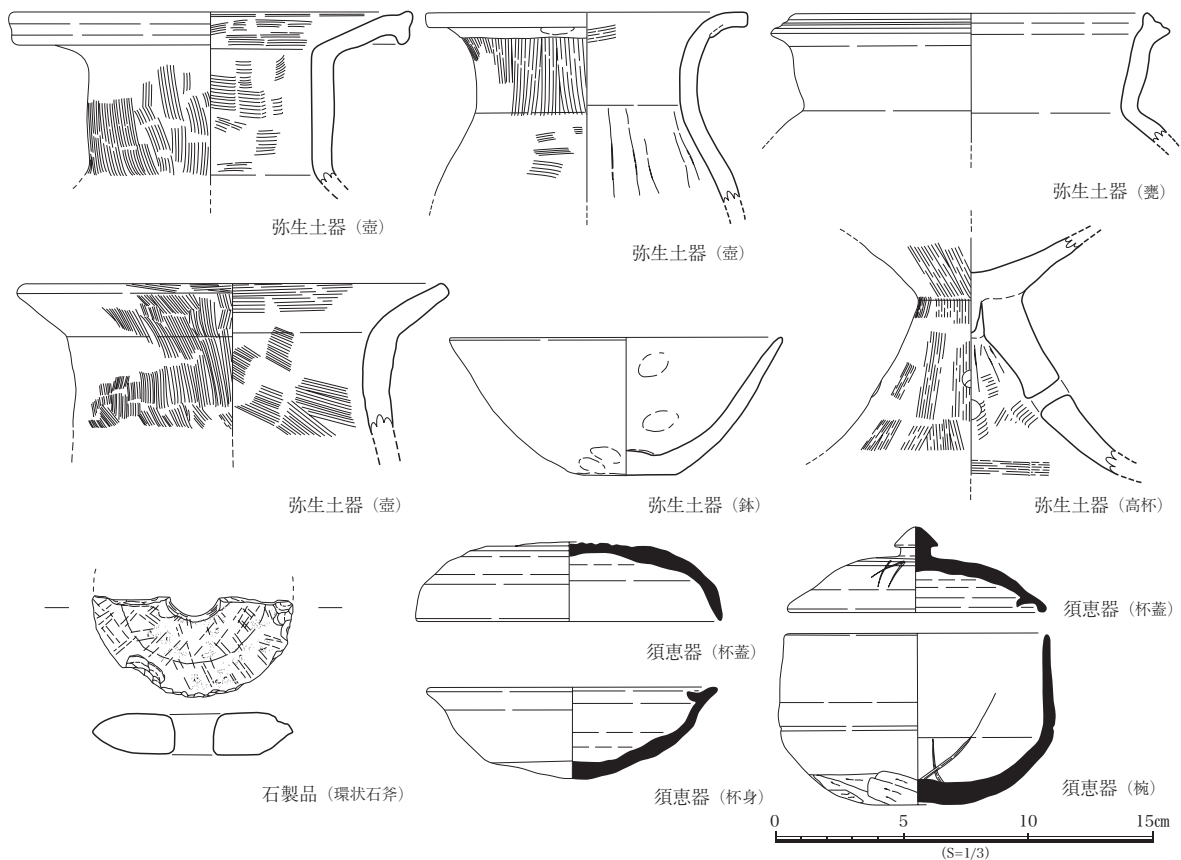
I区西側とII区西側からIII区東側にかけて14～15世紀頃と考えられる溝や塀で区画された屋敷跡を確認しました。これらの屋敷跡は2間×3間程度の掘立柱建物4～5棟で構成されていたものとみられ、4～5軒の家族が生活していたものと推察されます。西側の屋敷跡には畠跡と考えられる畝状遺構も検出され、当時の生活の様子が窺われます。

来年度調査予定箇所からも平成15年度に実施した試掘調査によって当時の遺構が数多く確認されており、集落はさらに西に展開するものと考えられます。

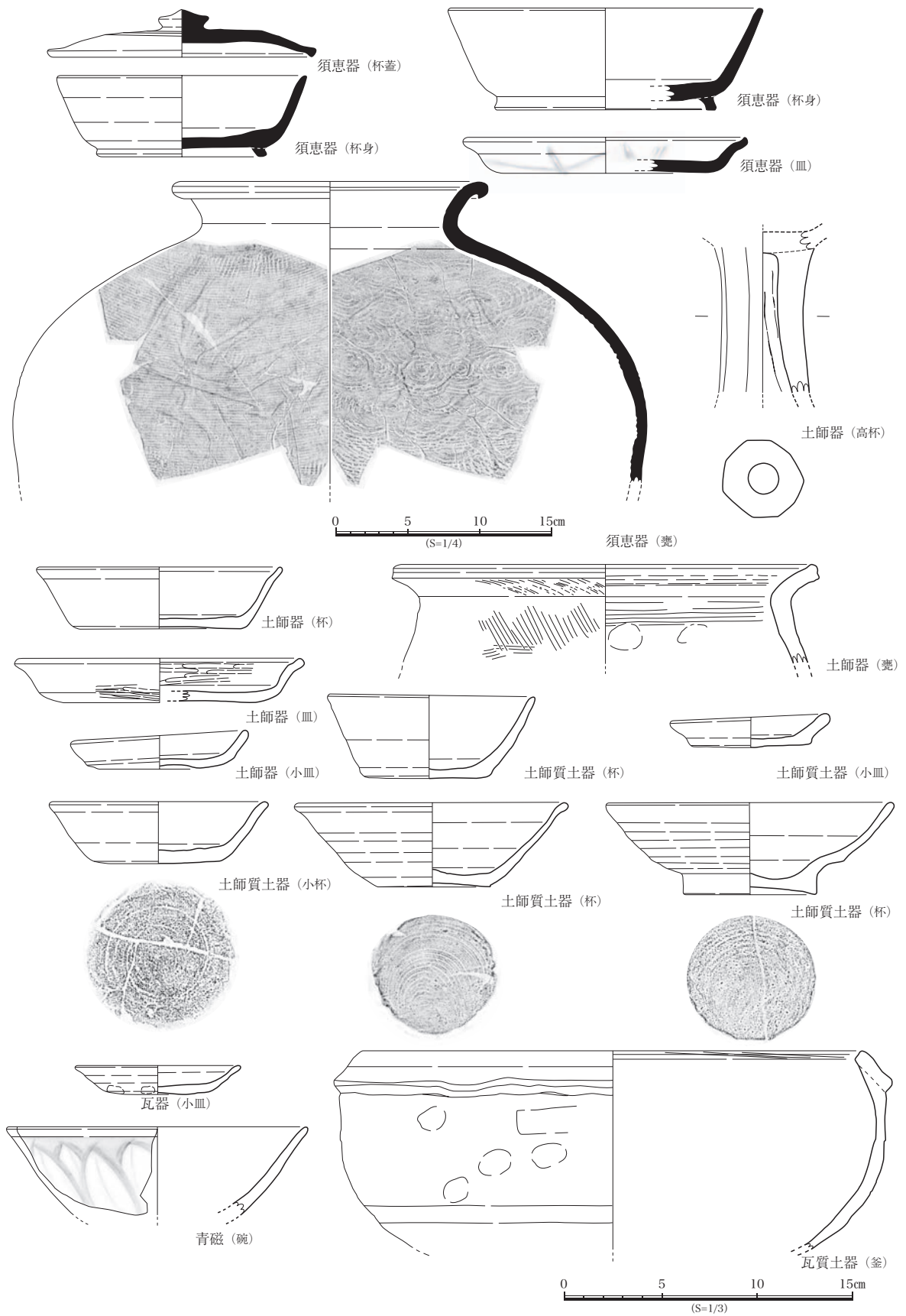
11. まとめ

田村遺跡群や土佐国衙跡を始めとして数多くの遺跡が所在し、発掘調査が幾度となく行われている南国市にあって、西野々遺跡周辺は調査例の少ない地区であり、その成果については未知数でありましたが、郷家の可能性がある建物跡を始めとして各時代の遺構や遺物が出土し、この調査が南国市の歴史の空白部分を埋める役割を果たすものと思われまます。また、遺跡の成り立ち、古環境の解明は、人間の生活の移り変わりを示すものであり、歴史の叙述に欠くことのできないものと思われまます。発掘調査は継続中であり、さらに来年度も計画されており、今後更なる発見も少なからず期待されまます。

ぜひ、この機会に地元の方々には発掘調査に対するご理解を頂き、今後ともご協力を切にお願いします。



出土遺物実測図1(弥生土器・石製品・須恵器)



出土遺物実測図2 (須恵器・土師器・土師質土器・瓦器・瓦質土器・青磁)

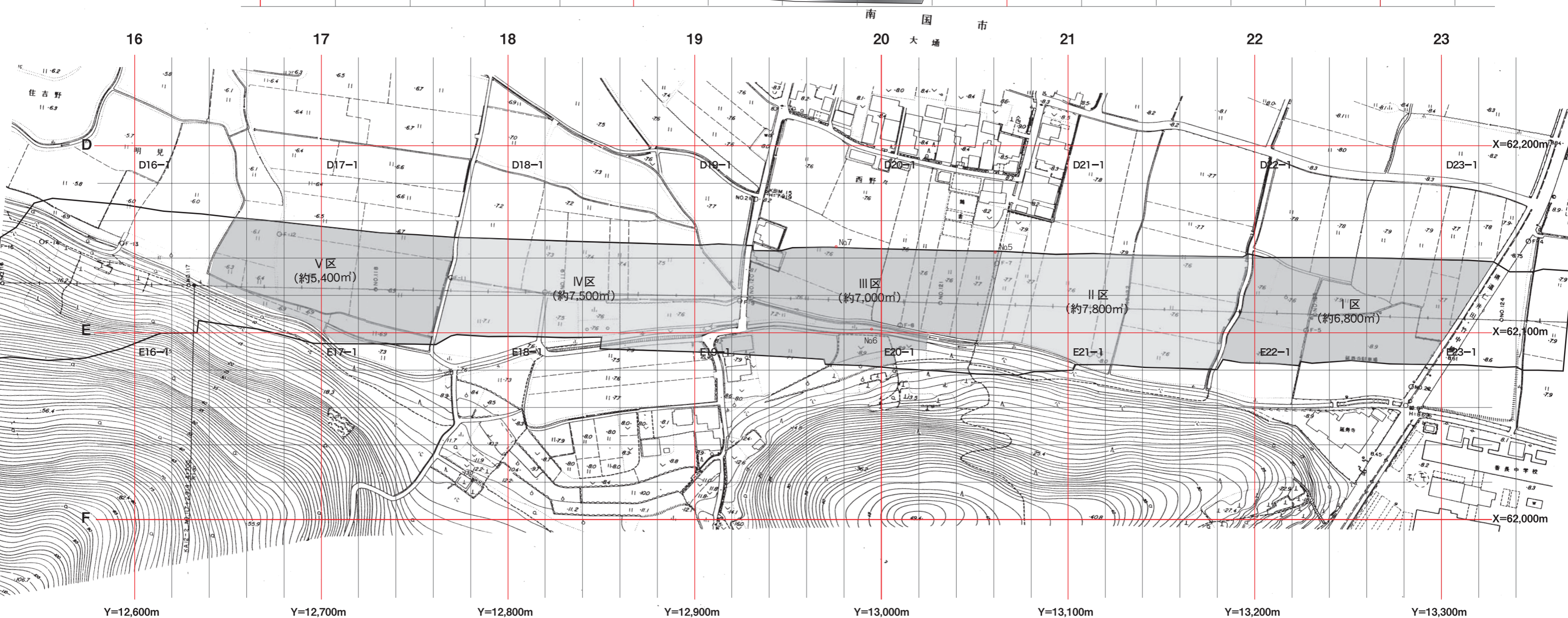
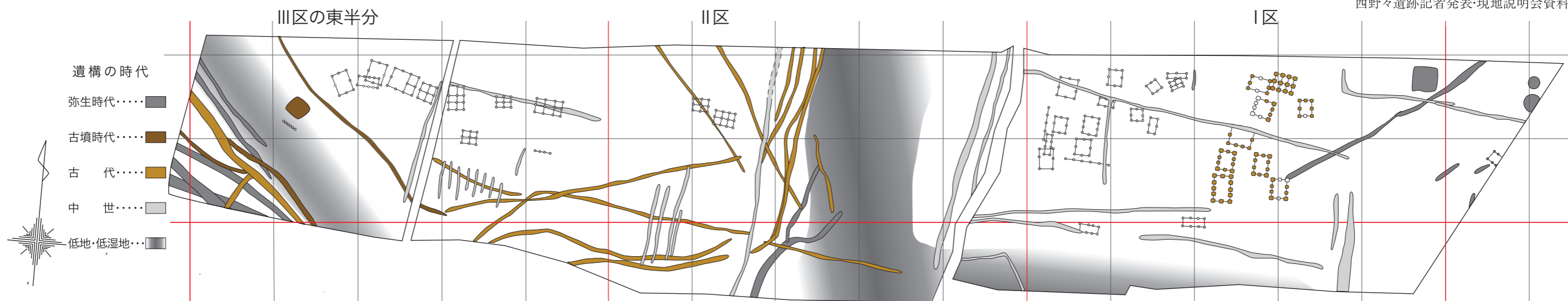


西野々遺跡第Ⅰ調査区(Ⅰ区)の西半分(東より)



西野々遺跡第Ⅱ調査区(Ⅱ区)の東半分(西より)





平成16年度調査予定区: I区, II区, III区の東半分  
 平成17年度調査予定区: III区の西半分, IV区, V区

西野々遺跡発掘調査区全体図・グリッド設定図(S=1/2,000)と平成16年度調査遺構配置図(S=1/1,000)